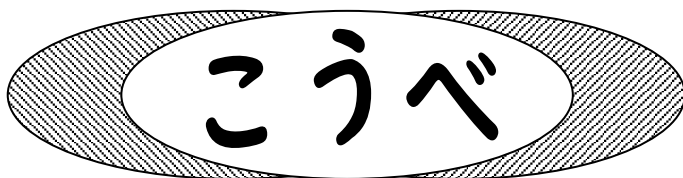




学校だより



6月号

神戸市立こうべ小学校

「心をひらく」

朝、駅から学校へ向かって歩いていると、前をこうべ小学校の体操服を着た子が歩いていました。後ろからくる足音に気づいたのでしょいか、その子は後ろを振り返りました。そして、くると私の方に向きを変えると、立ち止まってお辞儀をしてから学校へと歩いていきました。私とその子の距離は 10m ほど離れていたと思います。ですから、声は届きませんでしたが、心は届きました。こうべ小学校に赴任してから、同じようなことが最近増えてきました。先日も、いつもより少し早く学校を出て帰っていると、お母さんと一緒に自転車で移動している子と出会いました。その時も少し距離が離れていたのですが、私の方へ会釈をしてくれました。

こうべ小学校では「どん・ふわ・ぴた・もく」と合言葉を決めて、みんなが気持ちよく学校生活を送ることを目指しています。その最初の「どん」はあいさつに関係しています。

「どんどんあいさつをしよう」の「どん」です。これまで取り組んできた成果だと、自分からあいさつをしてくれる子供がたくさんいます。朝、門のところで立っていると、わたしの顔を見て「おはようございます。」と言ったり、立ち止まって頭を下げてあいさつをしてくれたりします。中には、恥ずかしそうに頭を下げるのがやっという子や小声でつぶやくように話す子もいますが、声をかけるとみんな返事をかえしてくれます。こうべ小学校の子供たちの素敵なところですね。

「あいさつ」は漢字で「挨拶」と書きます。「挨」という漢字は、「後ろから押す」「近づく」という意味を、「拶」という漢字は「迫る」という意味を持ちます。どちらも相手との距離を縮めるという意味をもっています。もともとは禅宗の修行の一つとして、お坊さん同士が出会ったときに、お互いの悟りの深さを試すために行っていた禅問答を表す言葉だったそうです。初めて出会った者同士でも、「挨拶」をかわすことで相手のことを知り、互いに高めあっていたのでしょうか。その意味が転じて人と人が出会ったときにかわす受け答えに「挨拶」という言葉が使われるようになったようです。自分が学んだことを隠さずに相手に伝え、少しずつ心の距離を近づけるという行為が背景にあると考えると、挨拶することが「自分の心を開き、相手に近づいていく」ことにつながると言えます。実際、ひとこと挨拶をかわすだけで、次につづく言葉が出やすくなり、自然と会話に発展していったという経験も少なくありません。また、毎日子供たちと挨拶をするうちに、ゆっくり話したことがない子でも少し親しくなれたような気がしています。

挨拶に関しては、頭を下げるという動作もあります。自分の急所である頭を相手に見せることで、相手を攻撃するつもりはないことを示していると言われています。国や地域によって頭を下げるかわりに握手をしたり、ハグをしたりと動作はさまざまですが、いずれの場合も相手に敵対する気持ちをもっていないことや悪意をもっていないことを表しています。動作を交えて言葉をかわすことで、相手に「私はあなたと親しくなりたいのです。」という意思を伝えることができるのです。

挨拶に関しては、頭を下げるという動作もあります。自分の急所である頭を相手に見せることで、相手を攻撃するつもりはないことを示していると言われています。国や地域によって頭を下げるかわりに握手をしたり、ハグをしたりと動作はさまざまですが、いずれの場合も相手に敵対する気持ちをもっていないことや悪意をもっていないことを表しています。動作を交えて言葉をかわすことで、相手に「私はあなたと親しくなりたいのです。」という意思を伝えることができるのです。

デジタル機器が進化し、はるか遠くに離れた人とボタン一つで知り合いになれる時代になったからこそ、「心を開いて相手とお近づきになる」という挨拶の大切さを今一度、子供たちに伝えていきたいと思います。

(校長 杉山 昌宏)